

ジオン注射療法＝ALTA療法（アルタ療法）は、いぼ痔を切らずに、注射で治す画期的な治療法です。

ジオン注射・ALTA（アルタ）療法は、いぼ痔（内痔核）に効果を発揮します。座薬や軟膏を肛門に注入する方法では治らない、排便時に出血がある、排便時に脱肛するが、自然に戻る、排便時に肛門が脱出する。指で押さないと戻らない、などの脱肛を伴ったいぼ痔（内痔核）でお悩みの方にとって、夢のような治療と言えます。ジオン注射・ALTA（アルタ）療法は、近年、注目されている、内痔核（いぼ痔、脱肛）の治療法の一つです。痛みもほとんどなく、日帰り手術（当日または翌日の午前中に退院する手術）として治療を行えます。

ジオンという、硫酸アルミニウムカリウムとタンニン酸を有効成分とする強力な治療薬（硬化剤）を使用します。これらの成分を患部に注射することで、痔核の脱出・出血症状を改善するのです。

治療の流れ： ジオン注射・ALTA（アルタ）療法

1. まず最初に麻酔を行います。局所麻酔もしくは仙骨硬膜外麻酔
2. 四段階注射法といって一つの痔核に対して4カ所に分割してジオンを局所注射します。治療にかかる時間は、麻酔も含めて30分程度です
3. しばらくすると、出血が止まり、脱出も軽くなります。
4. 1週間から1ヶ月程度で、脱出が見られなくなります。

従来でしたら手術が適応となった、脱肛を伴う内痔核の一部が、ジオン治療の適応になった事が大きな特徴です。手術の為に、お仕事を長期に休んだりする必要がありません。痛みや出血が少なく、治療時間も短いため、身体的・精神的負担が軽いです。治療費が保険適用のため、経済的負担も軽減されます。

しかしながら、すべての内痔核を治せるというものではありませんし、手術治療がなくなる訳でもありません。手術になるか、ジオン治療になるかは、診察の結果、脱肛の程度と特徴で判断します。また、肛門は大変繊細な場所ですので、ジオン治療によってまったく症状がなくなるわけではありませんし、一部の患者様では、複数回の治療を要する場合があります。再発する可能性もあります。

ジオン（ALTA）を患部に注射する手技である四段階注射法は、難度の高い技術です。教育を受けた医師が在籍する施設でないと治療ができません。どの施設でも受けられる治療法ではありません。当院では2名の有資格医師により治療を行っています。

術後の注意： ジオン注射・ALTA（アルタ）療法

入院しないで、日帰りで行いますが、ジオン治療施行後、二日程は自宅で安静にしている必要があります。また、痔核に注入された硫酸アルミニウムカリウムが、腎臓から尿中に排泄されるので、十分な水分摂取と、尿量の確保が重要です。この十分な水分摂取は、手術前から留意してください。

副作用： ジオン注射・ALTA（アルタ）療法

射部位の痛み、腫れ、発熱、肛門部の重たい感覚などが見られることもあります。

くすりのしおり

注射剤

2014年02月改訂

<p>薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。</p>	
<p>商品名: ジオン注生食液付 主成分: 硫酸アルミニウムカリウム水和物 (Aluminum potassium sulfate hydrate) タンニン酸 (Tannic acid) 剤形: 注射剤 シート記載:</p>	
<p>この薬の作用と効果について 痔核内に急性炎症を起こすことで組織を線維化させ、肛門の外にとび出た痔を小さくし、痔が肛門からとび出す・出血するなどの症状を改善します。 通常、脱出を伴う内痔核の治療に用いられます。</p>	
<p>次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。透析を受けている。・妊娠中、妊娠している可能性がある、または授乳中・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。	
<p>用法・用量（この薬の使い方）</p> <ul style="list-style-type: none">・あなたの用法・用量は<< :医療担当者記入>>・通常、患部の数ヵ所に直接注射します。	
<p>生活上の注意</p> <ul style="list-style-type: none">・注射2週間後までに一過性の発熱があらわれることがあります。十分に注意し、発熱した場合には医師に相談してください。	
<p>この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用） 主な副作用として、発熱、血圧低下、頭痛、吐き気、食欲不振、肛門周囲痛などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。 まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。 このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・立ちくらみ、めまい、脱力感 [血圧低下、徐脈]・腹痛、血が混ざった便が出る、肛門周囲に痛みを感じる [直腸潰瘍]・便が細くなる、便が出にくい [直腸狭窄] <p>以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。</p>	
<p>保管方法 その他</p>	
<p>医療担当者記入欄 年 月 日</p>	

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。